



うみ 海をわたる

だい8しょう



主^{しゅ}はリーハイに、かぞくをつれて、船^{ふね}にのるようにおっしゃいました。リーハイたちは、くだもの^{にく}や肉、はちみつ、やくそくの^ち地でまくたね^{ふね}を船につみました。(1ニーファイ18:5-6)



つよ^{つよ}かぜ^{かぜ}をうけて、船^{ふね}は、やくそくの^ち地へとむかいました。(1ニーファイ18:8)



レーマンやレムエルたちが、わるい^{おこな}行いをするようになりました。ニーファイがやめるように^い言うと、二人はおこって^{ふたり}ニーファイをなわでしばってしまいました。(1ニーファイ18:9-11)



すると、そのわるい^{おこな}行いのためにリアホナがうごかなくなり、船^{ふね}をどちらへすすめたらよいか、わからなくなりました。その^{うえ}上、大あらし^{おお}がおこり、船^{ふね}は3日間、もと^{まき}来た方へ^{ほう}ふきかえされました。(1ニーファイ18:12-13)



リーハイがニーファイのなわをとくように^い言いましたが、レーマンとレムエルは聞きません。リーハイとサラリアは、かなしみの^ああまり、びょうきになってしまいました。(1ニーファイ18:17)



ニーファイのつまや子どもたちも、レーマンとレムエルに、ニーファイのなわをといてくれるようになってたのみました。しかし、二人は耳をかきませんでした。(1ニーファイ18：19)



4日目に、あらしは、ますますひどくなりました。船は、今にもしずみそうです。(1ニーファイ18：14-15)



レーマンとレムエルは、ようやく神があらしをおこされたことに気づきました。そして、海にしずんでしまうのではないかとおそれました。(1ニーファイ18：15)



やっとレーマンとレムエルは、くいあらためて、ニーファイのなわをときました。ニーファイの手首と足首はひどくはれ上がり、いたみましたが、ニーファイは一つもふへいを言いません。(1ニーファイ18：15-16)



ニーファイはリアホナを手にとると、リアホナはまたうごきはじめました。ニーファイがおいのりをするとき、風がなげ、海もおだやかになりました。(1ニーファイ18：21)



ニーファイは船のかじをとって、ふたたび、やくそくの地へむかってすすんで行きました。(1ニーファイ18：22)